

議会報告会報告書

開催日時	平成29年4月13日(木) 19:00~20:38
開催場所	あがたの森文化会館
出席議員	今井ゆうすけ、若林真一、井口司朗、上條美智子、田口輝子、中島昌子、小林あや、小林弘明、芝山稔、柿澤潔、宮下正夫、青木豊子、近藤晴彦、南山国彦、草間錦也、太田更三
参加人数	62名
報告に対する質疑	<p>Q：請願の審査結果について、報告によると、国や県の動向を見てなどと言った理由で、それぞれの委員会での議論が消極的すぎるのではないかと疑問に感じた。もう少し詳細に説明をお願いしたい。</p> <p>A：請願第1号「中山間地地域活性化の拠点となる長野県梓川高校の存続・発展と少人数学級の導入を求める意見書を県知事に提出するよう求める請願」について（中島教育民生委員長） 提出者が教職員組合だけであることから、学校側（県）やPTA、地元などの意向はどうか十分検討する必要がある、との理由から継続審査となった。</p> <p>A：請願第4号の1「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める請願書」（労働環境の改善及び医師看護師等の増員）について（小林経済地域委員長） 働き方改革について、国で審議中であり、3月末を目途にその方針が出されようとしていることから、その結果を見てから判断しようという理由から継続審査となった。</p> <p>A：請願第4号の2「安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交代制労働の改善を求める請願書」（患者・利用者の負担軽減及び病床機能の確保）について（中島教育民生委員長） 必要な医療がきちんと受けられることの重要性はわかるが、すべての利用者に対し負担軽減を行うとなると、相当な財源が必要となり、財源確保が困難であるとの理由から起立採決の結果、賛成少数で不採択となった。</p>

	<p>A：請願第5号「島立にデマンド交通を実現させる請願書」について （上條建設環境委員長）</p> <p>全市的な問題でもあることから、少なくとも町会連合会など地域全体で話し合わせ、多くの人の賛同を得てから、地域として市へ要望されることの方が良いのではないかとの理由から起立採決の結果、賛成少数で不採択となった。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年4月14日

上記のとおり報告します。

報告者 井口 司朗 ・ 宮下 正夫

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19:55～20:30
開催場所	あがたの森文化会館（第1会議室）
出席議員	井口司朗、小林弘明、柿澤潔、近藤晴彦、太田更三、田口輝子
参加人数	21名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>【備蓄倉庫】</p> <p>Q：市東部に備蓄倉庫がない。島内にできるようだが、人口の多い東部にも備蓄倉庫を。</p> <p>A：島内の備蓄倉庫は物資の集積場所。そこを拠点に各地へ配送する。備蓄は各地区の学校で行う。倉庫の平均化は要望中。</p> <p>【地区を横断した防災訓練】</p> <p>Q：第3地区は、12の町会がある。防災訓練をやっているが、指定避難場所に他の町会の人も入ってくる。他地区と調整して時系列に沿った避難訓練が必要。また、避難場所に行っても中に入れなかったりあり得る、現実に即した訓練ができるようにしたい。</p> <p>A：避難所にいろいろな町会が合流したときの対応のシミュレーションが必要。</p> <p>意見：里山辺地区は、地区体育館、小、中学校など避難所ごとに順番に訓練を行っている。他地区の人もあることを想定した訓練が必要。</p> <p>意見：地区横断的に訓練をしないといけない。他地区と取り組めるようガイド役を市にやってほしい。</p> <p>A：市に要望します。</p> <p>Q：県ヶ丘高校を指定避難所としているのは、里山辺の西小松町会、第3地区の3町会の計4町会。三者合同の訓練を要望しているが、高校が動かない。町会は要望しているので、市危機管理課が県に働きかけるなどしてほしい。</p> <p>A：訓練の前に、ステップを踏んで、役員同士での意見交換等顔合わせの仲介が必要。</p>

	<p>【防災無線】</p> <p>Q：防災無線は室内につけてほしい。現状では何を言っているかわからず、無駄な放送。</p> <p>A：あちこちから叱られるので要望している。全世帯でなくても、希望する方には補助を出すなど実現するように働きかけていきたい。</p> <p>Q：公民館には人が住んでいないので、防災無線を置いても意味がない。防災部長の家にでもあった方がいい。地震で潰れる公民館に人は集まらない。</p> <p>A：一般的に家庭ではFMや携帯で情報を得られる。</p> <p>【その他】</p> <p>Q：島立の防災倉庫には市からの補助金は出ているか。</p> <p>A：出ている。</p> <p>要望：（入山辺地区）平日の日中、家にいるのは女性や高齢者が多い。昼間何かあったときのシミュレーションをしっかりとってほしい。</p> <p>A：生活の実態にあった訓練や時間帯等を含めていろいろなバリエーションの訓練が必要。取り組んでみて課題を出してもらい、具体的支援ができるようになればいい。</p>
その他	<p>Q：市立病院の建設予定地（宮地エンジニアリング工場跡地）について、汚染の問題等、大事に扱ってほしい。</p> <p>A：土壌汚染がないことが建設の条件なので、大丈夫だとは思いますが、重要なことなのでしっかりチェックしていく。</p>

松本市議会議長 様

平成29年4月14日

上記のとおり報告します。

報告者 田口 輝子

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19:55～20:30
開催場所	あがたの森文化会館（講堂）
出席議員	上條美智子、小林あや、宮下正夫、南山国彦、芝山稔
参加人数	21名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域公共交通 ）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 入山辺線開設に当たっては、地域づくりセンターを含む行政、町会相まって協働作業で進めた。また、「中山線」や「ほしみ線」などの先行事例を見ながら取り組むことができた。限られた便数を効果的に配分して、通勤・通学、通院・買い物等に配慮した。具体的にはアンケートによった。「デマンド」という声もあったが、費用対効果を考え効果的なルートを走る定期路線とした。・ 第3地区として、イオンモールのオープンによる渋滞対策を要望してきている。これまで行政と実際に街を歩いてみて、道路拡幅が難しいのであれば、側溝の整備などを行い、歩行や自転車の通行環境を整える等提言してきた。行政は住民の生の声を聞くことが重要。その意味でも今日の意見交換会に期待している。・ 地域公共交通について、里山辺地区としては、入山辺線に協力していくスタンス。入山辺線がうまく軌道に乗れば、従来路線のなかったところに要望があがる可能性はある。美ヶ原温泉線があり、この路線廃止は考えられないだろう。・ 路線開設では地区の負担の問題もあり、実際動いたときに乗るかどうかといった課題はある。・ 入山辺線の路線周知については、公民館報、町会での報告などによってきた。アルピコの路線がなくなると知らされた時は意外に大きな動揺はなかった。（あきらめ。乗らなかったのも仕方ない。）しかし、路線がなくなるとは困る、ということで負担金があっても路線を開設する事とした。・ バスが通っても乗らないと思う。バスは道路渋滞に巻き込まれ、通勤には使えない。イオンができればもっと渋滞するだろう。乗るのは交通弱者か。・ イオンモールによる渋滞対策で、市は一企業のために何かはできないといわれているが、何ができるのか模索していただきたい。イオンは、イオン南松本へのシャトルバスを運行したが、南へ行くのにアルピコであれば、一旦バスターミナルまで行く必要があるが、このシャトルバスは直通であり使い勝手が良かった。ニーズに合うバス運行をのぞむ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地への車流入を抑制するために、中心市街地を取り巻く道路を早期に整備していただきたい。 ・ 公共交通のないところに住む両親の運転免許は、生活面で取り上げることができない。 ・ イオンの渋滞対策では、時間がかかっても車で来て、荷物を持って車で帰ると考えられる。パークアンドライドも計画されているようだが、効果は疑問。 ・ 公共交通に乗ることに慣れていないのではないか。市民意識を変えていくことも必要。 ・ 歩道のない道路、コンクリートが割れて自転車のタイヤがはまってしまう道路もある。歩道や自転車道をしっかり整備していただきたい。
その他	<p>2月議会で通学環境の改善について請願をされた松本工業高校の生徒たちも参加していただきました。上高地線の朝は大変込んでいます、との報告がありました。</p>

松本市議会議長 様

平成29年4月14日

上記のとおり報告します。

報告者 芝山 稔

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成29年4月13日（木） 19:55～20:30
開催場所	あがたの森文化会館（講堂）
出席議員	今井ゆうすけ、中島昌子、青木豊子、草間錦也、若林真一
参加人数	11名
意見交換	<p>テーマ名（若者参加の仕組み作り）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 寿地区では、各行事の際に筑摩野中学校に応援を要請して参加をしていただき、協力体制ができており評判が良いが、寿地区の一部は、通学区が違うため、卒業してから地域に戻ってきても地域に馴染みがなく、地域の方もわからず課題である。・ 寿地区には信州型コミュニティスクールがあり、学校と地域が連携して、生徒が地域に出て、地域が学校に入って交流して子供を育てている。中学生になると自分の意志で行動できるが、小学生は農業体験など地域の方が学校に入り交流している。 子供の頃から交流することにより、いったんは都会に出てしまっても地元に戻ってきた時には、すぐ地域と打ち解けやすく根付くと思う。 仮に、違う地域でもそのような思い出があるとその地域が良くなると思う。ただ、若い人を集めるのに苦労している。それは労働環境等で若い親が地域づくりに賛同してくれない。時間がないというのが原因ではないかなと考えている。・ 松菊会という秋になると松本城で2週間行われる菊花展があるが、松本城に外国人観光客増えて、主催者が対応に苦慮していた。 そこで、インターアクトというボランティア活動している松本工業高校の生徒に協力を要請したところ快諾いただいて活躍してもらい「一年間の活動記録」まで作ってもらった。新聞社等から取材をしたいと言われたが、タイミングが合わず若者が活躍しているのにもったいないことをしてしまい、非常に残念だ。・ インターアクト部に所属しているのは交流を目的としている。それは、人の役に立ちたいとか、人と関わりたいと思ったのが原点。 その活動の一環として、年一回の「ふれっ手」という施設のお祭りに参加をしている。他に、学校周辺のゴミ拾い等の活動をしている。 このように交流が増える事は、学生にとっても子供や地域にとっても良いことだと思う。

- ・ 入山辺地区では、地域の子供は地域で育てるとして、小学生は通学合宿、中学校を卒業する時に会食会を催しているの、繋がりが持てており、大いに期待している。
- ・ 入山辺地区では、子供を育てる世代の人がいなくなり、子供の減少に繋がっている。そして他地域に移り住んでしまうので、今対策を考えている。
- ・ 入山辺地区は、子供が増えないのは農業政策が関わっていると思う。農地の制約があり、長男・次男に住んでもらおうとしても、農地転用できない。政治のチカラが必要だ。
- ・ 市議会側からの発信がほしい。今回、松本工業高校の請願があったが、他の高校も同様な事を考えてほしい。(交流活動も含めて)
- ・ 入山辺地区には地域づくりの会があり、若い人が入ってくると活動の幅や内容等が活発になる。他の地域の方も入ってきていることが相乗効果をもたらしている。
- ・ イベントや行事などは一部の人達で盛り上がり、運営している。議会報告会の委員長レポートは若い人が聞くとつまらないと思う。
- ・ 組織のない場所での地域づくりや若者の定義によっても違うが、居場所作りが大切だ。児童センター等において、カフェ方式で項目やテーマを決めたディスカッションができたらと思う。

【18歳選挙権について】

Q (議員) : 18歳になったら選挙権が与えられるだけではなく、25歳になったら立候補できる事も啓発することは良いことではないかと思う。投票しようと思う人がいなければ自分たちで立候補したらどうでしょう。

A (参加者) : 仕事を辞めてまで立候補をするのは勇気がいる事だと思う。選挙にもお金がかかるし、落選したら収入がなくなる。次の仕事先を探さなければいけなくなり、会社の社長さんのように落選しても収入が見込めないと難しいと思う。

Q (議員) : ボランティア活動をしていると自分達だけではできないことがあって、政治家のチカラや行政のチカラを借りないといけないと感じるようになる。そんなことを思うと自分で解決したいと思って議員になろうと思うのではないか。それは年齢ではなく、意欲ではないか。

A (参加者) : 今の仕事に愛着を感じていてリスクがあることに踏み出せない。

	<p>意見：松本工業高校の生徒さんが自分達で政治参加する事を学んで実践する行動を起こしたことが大きな一歩ではないかと思う。</p> <p>小学生や中学生の時から課題を解決していき自分達の生活がどうしたらよくなるだろうと考えいく事で、政治に対する関心が深まるのではないかと思う。</p> <p>【その他】</p> <p>Q：青少年ホームが変わるといのはどう変わるのか。</p> <p>A：「勤労」がとれる事で働いていない子供にも対象が広がり、そういう方達の居場所づくりになり、有意義な事だと思う。</p> <p>Q：具体的な施策はあるのか。</p> <p>A：29年度の当初予算に計上されたので、これからです。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年4月17日

上記のとおり報告します。

報告者 若林 真一